

SuperDARN 北海道-陸別 HF レーダーの現況報告 (2010.10)

西谷 望 [1]; 小川 忠彦 [2]; 菊池 崇 [3]; 海老原 祐輔 [4]; 堀 智昭 [5]; 行松 彰 [6]; 塩川 和夫 [3]; 大塚 雄一 [3]; 鄒 運 [7]; 細川 敬祐 [8]; 片岡 龍峰 [9]; 久保田 実 [10]; 北海道-陸別 HF レーダーグループ 西谷 望 [11]
[1] 名大 STE 研; [2] NICT; [3] 名大 STE 研; [4] 名大・高等研究院; [5] 名大 STE 研; [6] 国立極地研究所; [7] 名大 STE 研; [8] 電通大; [9] 東工大; [10] N I C T; [11] -

Status report on SuperDARN Hokkaido radar (2010.10)

Nozomu Nishitani[1]; Tadahiko Ogawa[2]; Takashi Kikuchi[3]; Yusuke Ebihara[4]; Tomoaki Hori[5]; Akira Sessai Yukimatu[6]; Kazuo Shiokawa[3]; Yuichi Otsuka[3]; Yun Zou[7]; Keisuke Hosokawa[8]; Ryuho Kataoka[9]; Minoru Kubota[10]; Nozomu Nishitani SuperDARN Hokkaido radar group[11]
[1] STELAB, Nagoya Univ.; [2] NICT; [3] STEL, Nagoya Univ.; [4] IAR, Nagoya Univ.; [5] STE lab., Nagoya Univ.; [6] NIPR; [7] STEL, Nagoya University; [8] UEC; [9] Tokyo Tech; [10] NICT; [11] -

Latest status report on the SuperDARN Hokkaido radar, which has been operational for almost 4 years, will be presented. Progress status of the planned SuperDARN Hokkaido West radar will also be reported.

2006年11月に稼働を開始して以来約4年弱が経過した SuperDARN 北海道-陸別 HF レーダーの現況について報告する。前回(2009年 SGEPS 秋学会)からの主な報告事項は以下の通りである。

1. 2009年12月13日に、無線 LAN 中継システムを利用した高速ネットワーク回線が約1年半ぶりに復旧した。
2. 2009年12月25日に、測定装置や電離圏鉛直多重反射エコー等により確認されていた range offset の修正を行った。
3. 2010年6月10日に、大容量データ取得のための記憶装置(1TB 内蔵 HDD 搭載 PC)を設置した。
4. 2010年6月10日より、夜光雲やオーロラ・大気光等の観測のためのカメラをレーダーサイトに設置し、5分ごとの静止画観測を継続的に開始した。

その他の特筆すべき事項としては、2010年6月より口蹄疫に対する警戒により、牧場中に位置するレーダーサイトへの進入が著しく制限されているという状況がある。このため、現地での確認が望ましい TMS(高時間分解能データ取得)観測モードの運用開始を見合わせざるを得ない状況が続いているが、8月下旬には解決できる見込みである。これ以外には予稿投稿時(2010.7)において特に大きな問題はなく、順調に観測を継続している。

また講演においては、北海道-陸別第二レーダー(概算要求中)の準備状況についても報告する予定である。